

普及活動情勢報告（平成31年1月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ショウガの栽培技術向上に向けて！ ～JA四万十生姜部会反省会の開催～



反省会の様子

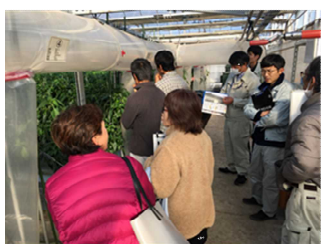
12月21日、JA四万十本所でJA四万十生姜部会反省会が開催され、生産者23名が参加しました。

反省会では、平成30年度の生産及び販売実績、農業技術センター研究員による土壌病害防除の講演等がありました。

普及所からは、新型ショウガハーベスタ実演会の報告、実証試験の結果報告、農作業の負担軽減のための補助器具の調査結果についての情報提供を行いました。生産者からは、低濃度エタノールを利用した還元土壌消毒の経費や防除効果について質問が出されるなど高い関心を示していました。

普及所は、今後もJAと連携して、生産者の栽培技術向上に向けて支援していきます。

収量アップは、ハウス内環境の見える化から ～はちきん農業大学第6回高南地区講座の開催～



実証施設を見学する受講生ら

1月16日、農業担い手育成センターで、「農業の新技术」をテーマに講座を開催し、女性農業者等5名が受講しました。

農業担い手育成センターには、「環境制御技術」についての講義を行っていただきました。普及所からは、四万十町での環境制御技術の活用状況と次年度の機器導入補助事業などを紹介しました。

その後、ニラやピーマンなどの実証施設を見学し、受講者からは「温度や湿度の設定は？」「仕立て方はどうしている？」など、栽培管理技術等の具体的な質疑応答がたくさん出されました。また、後継者をセンターで研修させたいという声もありました。

普及所は、今後も、講座や個別指導などで、女性や若手農業者の栽培技術向上などを支援していきます。

良品生産と作業の効率化で地域の信頼を！ ～集落営農組織との打ち合わせ～



熱い思いを交換

1月16日、集落営農法人である(株)サンビレッジ四万十で、次年度の栽培に向けた打ち合わせを行いました。

本年度の反省点と対策については、的確な分析ができており、職員間のコミュニケーションもよく取れていることを確認することができました。また、次年度は、更なる作業の効率化、病虫害の予防の徹底により経営の安定化を図っていく計画であることを共有しました。

普及所は、今後地域での重要性が高まる集落営農組織への栽培、経営支援に力を入ると共に、集落営農組織が地域の信頼を得られるよう支援していきます。

品質の統一・向上に向けて ～JA高知県大正地区ナバナ目慣らし会の開催～



説明を聞く生産者

1月17日、JA高知県幡多地区大正支所出荷場で、ナバナの目慣らし会が開催され、生産者8名が参加しました。

JAからは、ナバナの出荷規格や形状を俵型にする際の注意点等についての説明がありました。

普及所からは、調製作業での異物混入防止に向けた注意点について説明しました。生産者に「作業の前後でハサミ等の器具の数を確認していますか？」と質問をしたところ、「きちんと確認している。」と返事が戻ってくるなど、日頃から意識して作業に取り組まれていることがわかりました。

普及所は、今後もJAと連携して、ナバナの品質向上に取り組んでいきます。

安定生産は剪定から ～JA高知県大正・十和栗部会剪定講習会の開催～



剪定講習会の様子

1月17日、JA高知県幡多地区大正・十和栗部会の剪定講習会が十和地区、大正地区でそれぞれ開催され生産者20名が参加しました。

栗剪定士による剪定の実演と講習が行われ、講習会では「剪定を行う意義」「目指す樹形の樹齢による変遷」「結果母枝数の制限」「間引き剪定時の座の処理」「脚立作業時の安全性確保」といった内容が説明されました。

普及所からは、昨年の不作の最大の要因が7月上旬の日照不足であったことを説明しました。

普及所は、来年度以降栗の収穫量が安定的に確保されるよう、剪定技術の普及に取り組んでいきます。

ピーマン新品種「高育交13号」を検討 ～JA高知県興津支所ピーマン現地検討会の開催～



現地検討会の様子

1月21日、JA高知県四万十興津支所ピーマン部会で、目慣らし会と現地検討会が開催され、生産者10名が参加しました。

普及所からは、目慣らし会では、うどん粉病の予防策と生育診断方法、新品種「高育交13号」の概要についての情報提供を行いました。現地検討会では、環境制御機器が導入されたハウスで行い、生産者にピーマンの草勢や、果実の肥大速度の違いなど炭酸ガス施用の効果を実際に見てもらいました。生産者も熱心に観察している様子でした。

普及所は、今後も、JAと連携して生産者の栽培技術の向上に向けて支援していきます。